

独立行政法人 日本芸術文化振興会
第28回 契約監視委員会 議事要旨

開催年月日	令和4年12月6日(火)
委員名簿 (敬称略)	黒石陽子(東京学芸大学教授) 千葉 尚路(弁護士) 大石 学(独立行政法人日本芸術文化振興会監事) 藤川裕紀子(独立行政法人日本芸術文化振興会非常勤監事)
議事次第	1.委員長の選出及び委員長代理の指名について 2.連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和4年度分)について(審議) 3.令和4年度調達等合理化計画における進捗状況について(審議) 4.その他
審議点検対象	連続して一者応札・応募等となった案件(令和4年度) ※一者応札・応募等事案フォローアップ票による
総括	(1)審議方法概要と結果 契約金額100万円以上かつ令和4年度の調達と前回の調達が連続して一者応札・応募となった8件について、フォローアップ票及び関係書類による説明を受け、契約監視委員会のコメントを決定しました。 なお、連続一者応札・応募の改善の取組として、次の点に留意してください。 ・分離調達とするか、一括調達とするかは、分離発注することに合理性がなければ、効率性や価格の観点から、統合しての調達を検討すること。 ・辞退した業者へのヒアリングを丁寧に行い、その原因を把握し、次回への調達に反映できるようにすること。 (2)令和4年度調達等合理化計画における進捗状況について 令和4年度独立行政法人日本芸術文化振興会調達等合理化計画のうち、重点的に取り組む分野と調達に関するガバナンスの徹底について、進捗状況の報告を受けました。 留意点 新型コロナウイルス感染拡大、円安、エネルギー価格高騰に伴う社会状況の変化や国立劇場再整備事業、振興会の調達に大きく影響を与えていることから、契約事務や仕様書作成等におけるガバナンスをより意識すること。